

公衆浴場入浴料金協議会小委員会 議事録

日時：令和7年9月18日（木）14:00～

場所：ひょうご女性交流館 会議室 302

1 開会

事務局：ただいまから公衆浴場入浴料金協議会小委員会を開催させていただきます。

本日はお忙しい中、ご参集いただきまして、ありがとうございます。

2 あいさつ

事務局：それでは、ご挨拶を含め、以後の進行を委員長にお願いします。

委員長：皆さん本日は暑い中、お集まりいただきありがとうございます。本日は大事なことを決めなくてはけませんので、資料に沿っていろいろとご意見を頂きたいと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

3 資料説明

委員長：それでは事務局の方から資料の説明をお願いします。

事務局：（説明）

委員長：どうもありがとうございました。これまでの調査していただいた内容を説明していただきました。この後、委員の皆様方からご発言いただければと思います。まず、いただいたこの資料の中で、確認をしたいところがあれば挙げていただけますか。

4 意見交換

委員：収支の計算の補助金なしというのは、一切の補助金が無しなのか、それとも特定の補助金が無しなのかどちらですか。

事務局：一切の補助金が無しということになっています。先日の第1回協議会の中で、大阪府は補助金なしで試算していると、いうようなことが話題にありましたので、補助金なしの試算も作りました。

委員：補助金というのは、全県レベル出ているんですか。

委員：ちょっと説明いいですか。補助金というのは、法律にも書いていますが公衆浴場組合の補助をするのは、地方公共団体なんです。そうすると、市か町か村になります。ただ、神戸市からは浴場組合の補助金が出す、西宮市は出す、尼崎市からは出すという、そうすると市の財政の規模、潤沢かそうでないか、市長の選択によって補助金が出る・出ないと

いうのがあるんです。その他に補助金として、日本政策金融公庫からの融資に対する補助金は多少あります。これは県が補助していただいていますので、1%を越える利子に対する半額を補助していただく補助もあります。

委員：もう1点ですけれども、今、兵庫県下統制額の490円の料金それは守らなくてもいいですか。450円のところもありました。

委員：物価統制令で、上限が決まっているものですから。

委員：上限ということなんですね、わかりました。

事務局：補助金についてですが、主に補助金を出しているのが神戸市と明石市と洲本市と三木市と淡路市ですけれども、神戸市以外は、概ね高齢者福祉の目的の補助金になっております。高齢者を入浴に導いて元気になってもらうというようなものです。神戸市の場合の主な補助金とはいうと、令和6年に関しては、入浴料金が450円から490円に上昇した価格を450円に施設に据え置いてもらう代わりに、差額の40円を神戸市から施設に補助するというものですので、入浴料金を補填する形で施設に補助がされております。

委員長：それでは内容に関して、今、お調べいただいた結果をご報告いただきましたが、前回、改定により現在は大人が490円、中人が180円、小人が80円になっています。その時の収支差額というのが、当時の計算ではマイナス3万9,556円になっていまして、そういうところで、試算したことになっています。

それと、もうひとつ参考までになんですが、小人の統制額は36年間にわたってずっと値上げされていなかったというのがあって、それまでずっと60円だったということが、それが前回の令和4年度に改正をして80円にしたということです。

委員：意見というより質問があります。結局ここに出てきたのは、大半が赤字だということでした。しかし、結局は副業して、いろんなもので最終的に、収支がプラスになっているということですか。

委員：そうですね。この資料の中で、とある施設において、風呂だけでは赤字だけれども委員がおっしゃったように、たまたま不動産業やっていて、その家賃収入でもって、赤字を補填しているということです。だからこの資料の中で併設のところは結構あると思います。資料5ページの兼業者及び併設は14件とあり、そのところは他の職業を兼業としてやっている。それがまず1つと、もう1つは、委員のおっしゃったように赤字のところでない黒字のところであれば、企業として、業種をとらえて、だから、従業員も雇い、それから株式を上場して、株式として企業として経営されている場合があります。だけど、大半が家業です。だから、農業に例えると、お父さんお母さん含め家族で商売をしている、そうすると負担がどうしても、家族に負担がかかってきて、人件費が余分に取れないから赤字を補填している、というのが多分現状だと思います。はい。赤字だから赤字であ

っても家業でもって、経営者がほとんど、給料ゼロ的な感じでやっているということです。

委員：必ずしもすごいマイナスではなく、やめるにやめられない。嫌々やっているというよりは、自分たちの家だから家業だから続けているということですね。

委員：はい、そうですね、家業としてとらえていただけたらよいかと思います。

委員長：現状を見ると、今のお話もあったように厳しいところが多いわけで、料金については上げざるをえない状況ということですね。

ただし、その料金をあげるということに対して各施設としては賛成・反対意見もありますが、賛成意見が多く、施設を利用される方の回答からも、今の状況は安いっていうのが一定程度はいることです。あとは大阪府さんの料金も今回大きく上げて 600 円になったこともあるので、そのあたりから考えて、今回、見直しをして上げざるを得ないのではないかと思います。

その場合に、どういうふうに考えていけばいいのかということですが、先ほどから話がある補助金をどう見るのかと、規模の大きな 5 施設ですね、それをどうとらえればいいのか、そのあたりでちょっとご意見いかがでしょうか。

委員：補助金のことで最小の地方公共団体単位である市との関係なんですけども、固定資産税の減免、それと、水道料金の減免があります。市単位での減免があるので、尼崎はゼロって言いましたけども極端に言うと補助金ゼロではないんですよ。固定資産と水道の料金の減免は大きくて、もしこれが全部なければ、ここに経費として上がってる中でもっと大きな赤字になっていると思います。

ここで、話は変わりますが組合の見解を述べさせていただいても結構でしょうか。入浴料金の適正価格が幾らになるのかということで、一応兵庫県の公衆浴場組合の考え方、私の個人的な考えもありますけども、まずは赤字では、赤字を解消する価格でないというの1つ。

2 番目として原価計算から価格を決定するという、通常の企業では売上の場合は、原価を計算しますけれども、果たして公衆浴場の場合、原価計算どうふうにするんだろうと、というのは1人のお客さんのお風呂に入っている時間がバラバラです。30分の人があれば、1時間の人もある。そうすると、20分の人には、あなたは幾らですよ、1時間の人は幾ら使ったかというのは当然できませんので、その辺のその滞在時間についての価格も、原価計算はなかなかできにくい業種だと思うんです。

3 番目として、以前から適正価格と言われる歴史ある産業ですから、昔は素うどん一杯の値段と大体入浴料金が、ほぼ同じだろうとずっとそういう形で言われておりました。今の素うどんがないのできつねうどん一杯の値段と大体庶民感覚として入浴の料金はほぼ同じじゃないかなという感覚です。これはあくまでもその肌感覚です。実際のデータがあるわけじゃないんですけども。とはいえ、庶民感覚だからこれも大事で、もしこの庶民の感覚からずれた入浴料金を設定しますと、ますます客離れになるんじゃないかな、という

感じはいたします。

現在ラーメンが一杯大体 700 円から 800 円、きつねうどんではぼ 600 円ぐらいでしょうか。それで一番、皆さんにお伝えしたいのが喫茶店のモーニング、これコーヒーとパン、卵、とかサラダとか色々付いて、大体 550 円から 600 円がモーニング代かなという感じですね。それで喫茶店のように滞在時間のあり方が一緒なので、モーニングを出すのにあなたは 2、30 分だからあなた安くします。長いこと滞在するともっと高いとかないですよね。これをよく喫茶店のモーニング代と比較するんじゃないかなというのは思っております。

4 番目として委員長がおっしゃったように、近隣の都道府県との価格比較です。大阪では 600 円、京都では 550 円、という近隣で残りの 3 都物語 1 つの神戸・兵庫県としては、やはりそれにある程度合致したような金額でもって提示しないと、これも庶民感覚として合わないのではないかなと思います。そこで、ここでありましたように大人において 550 円から 600 円の間の金額がいいんじゃないかなという感じがしております。これは一応業界の希望です。以上です。

委員長：はい、ありがとうございます。確かに庶民感覚っていうのは大事だと思いますね。

委員：このアンケートの結果ではあるんですけど、銭湯側としては、やっぱり経営のため、ある程度値上げをしないとやっていけないというのがある一方で、その額、値上げの幅によっては、客離れ、心配されるというような意見も出てますので、その見極めといいますか、バランスが非常に難しいのかなと考えます。値上げすることによって客離れで、その結果、銭湯としての収入が減ってしまつては、前回の議論でもあったかと思うんですが、元も子もないと。いうところがあるのかなと思いますので、やはり銭湯側、そして利用者側、双方の納得といいますか、感覚的にこれぐらいだったらやむを得ないなと、いうところの折り合いをどのあたりでつけるのかが、難しいかなとは思ってはいるんですが、そこをどうしていくのかがこの会で議論していくことになるかなと思います。あとはどうなんでしょうね、その施設の規模によって、やはり、結構、お客さんが入るところはお客入りますし、先ほど話ありましたが、法人形態で、人もたくさん雇っているところは、営業時間も長くて、1 日の利用客数もかなりあるのかなとは思いますが、一方で家族経営、特にご夫婦で経営されてるようなところはやはり、労働の負担から営業時間も短くなって、利用者数も当然減ってくる、そうすると売り上げも減っている。というような状況もあろうかなと思いますので、そのあたりのバランスといいますかね。そこを見ていかなきゃいけないのかなとは思いますが。

委員：その浴場までの交通手段ということで、イメージとしては、徒歩、或いは自転車の範囲かなと思っていたところ、車で行かれる方も結構おられます。20 ページのこの数値によると。そういう場合は、やはり有料駐車場に入れてということになると、お風呂屋さん行くとなると。入浴料金だけじゃなしにプラスでその辺もお金がかかってきてるんですね。

委員：お風呂屋さん自体が、駐車場併設されているところが結構あります。先ほど委員がおっしゃったように法人形態でやっている大きなところは、駐車場とタイアップしたりしています。今やっぱり車社会ですから。

ただ、余談ですけど、車に家族2、3人で来てくれるといいんですけども、個人で1人で車で来て、2時間ぐらい長い時間停めて、風呂に入って帰るとなると、それもお客さんですから、そうすると駐車場がいっぱいあって、4、5人を載せた車の人が入られないという、そういう、苦情も出てきてはおりますけれども、それはもう仕方がないことだと思います。本当にもう車社会ですね。

委員：2年前の令和5年2月1日に490円に設定した。この度令和7年か8年に実際の数字が出ると思われますが、その収支のバランス黒字化となると、560円という数字という、客離れがどうかなというような印象です。

委員長：先ほどのシミュレーションを出していただいて、それをどう見るかということですね。全施設でとらえていくのか、或いは苦勞されているところを中心に考えていくのかと。そうすると、5施設除くというところで、売上の均衡を考える、というところで15ページ16ページが1つの考え方のような気がします。さらにそのあとこの補助金のことについてどうとらえるかっていうことになるんですが、仮に15、16ページで見てみた場合には、先ほどのお話ですと、大人は570円、或いは16ページの話ですと580円そういうところを下げたしまうとちょっと収支が厳しくなる、そういうシミュレーションになっています。

委員：質問ですけども、神戸市さんなどの老人福祉の補助金では、実際にそれぞれのお風呂屋さんにお風呂さんに払う補助金の金額はどうやって考えられているのでしょうか。

事務局：おそらくなんですけど、利用者さんから料金をもらうか、市から補助金としてもらうかの違いで、施設の実入りは変わらないんじゃないかなと思います。高齢者福祉でいうと、高齢者の方が安く入るようにその分の肩代わりを市町がしてあげましょうっていうことです。

委員：つまり、例えば対象が70歳以上であった場合には、70歳以上の方が来たら、例えば入浴料が500円のところ、450円だけをお風呂さんはお客さんから取って、50円をその人が来ましたよって言って市に申請する、そういう形ですね。

委員：その件ですが、姫路市の場合は、高齢者のために希望者には、10枚つづりの券が姫路市から発行されて、それをもってお風呂屋さんに行くシステムになっています。

事務局：利用促進といいますか、高齢者の方に安くして行ってもらうもので、結果として利用者さんを増やす効果もあるのかなというものです。

委員：増やすというか、逆に、値段が高いからやめようというのを抑えるというものです
ね。ありがとうございます。

委員長：先ほどの話ですが、売り上げが大きいところというのは、どうでしょうか。

委員：おっしゃっているように、そこはもう除外していいと思います。私もびっくりしました、売上 1 億円超えるとあり、びっくりしました。それは設備投資もすごくしてらっしゃる施設だと思います。そういうところは省いてもらっていいのではないのでしょうか。

委員長：そういうことでご異論がなければ、1つの考え方としては、資料で言うと 15 ページ 16 ページあたりを参考にしながら、考えていければと思います。さらに、補助金のことですけど、含めて考えるべきなのかどうかということですね。

15 ページの試算では、規模の大きい 5 施設を除いて、これは、補助金があるということとを前提にしています。ただ先ほどの話では、地域によって補助金の状況に違いがあるということでした。

委員：先ほど、いろんな補助金があるということでしたが、メインと考えられている高齢者福祉のためのということであれば、利用料金に補助金が加算されているのではなくて、利用料金を割り引いてその分を補助金で出しているということであるから、値段が上がることによって利用者が減るということは無いものとして考えると、結局、その高齢者から丸々料金を取るか、一部を市が払うかの違いだけで、補助金があってもなくても、本来の収入変わらないということです。

委員長：そうですね。ということを見ると、補助金のこと考えないで、補助金なしでとらえてというお考えですね。

委員：いえ、いえ、逆ですね、補助金を市町村がやめたとしても、同額になるよう入浴料金の収入が増えるわけです。

委員：逆ではないですか。

委員：前提としてお客さんの値段が上がったから入浴はやめようというのは考えないとした場合ですが、入浴料金 500 円のうちの、利用者 450 円プラス補助金 50 円にするのか、それとも 500 円全額を利用者が払うのかの違いですね。だから補助金を差し引いて、補助金無しで計算してしまうと、ちょっとおかしくなるではないかと思います。とは言ったもののこれは 1つの考え方ですけどね。

委員：補助金には 2 つありまして、今、委員がおっしゃったような入浴売上に対する補助金、もう 1つの補助金は神戸市さんなんかもやっておりますけど、施設に対する補助金ですね、水道、固定資産税とか水道料金とかの補助金は、施設に対してですから、入浴に

は関係ないものです。

委員：施設に対する補助金であれば、補助金なしで試算するのが良いと思います。補助金のあり方でだいぶ話が違うことになっている。利用者に対する補助金であれば、入浴料金を利用者プラス補助金で賄うという考え。施設に対する補助金であれば、入浴料金はまるまる利用者が払い、それとは別に補助金というということになります。ただ、先ほどお聞きしたように、もし高齢者福祉のように利用者に出す補助金がメインだとすれば入浴料金を利用者と補助金で賄うので、合計が実質的な入浴料金収入になりますね。誰が払うかの違いですね。

委員長：ここで例えば 15 ページの補助金があるほうでとらえると、収支の赤字にならないところは、大人が 570 円ですね。これが 1 万 7000 円の収支がプラスになるというそういうケースになります。一方補助金なしだと 16 ページで 580 円となります。補助金がある方は 570 円で、補助金無しで 580 円の 10 円の差ということですね。

委員長：現行の 490 円から 580 円に、90 円上がったとして、補助金制度のある場合ではその 90 円を市町が負担するというふうなやり方もあるということですね。しかし、市町によってそういうことをするかどうか、それはわからないですけどね。

委員：よろしいですか。神戸市の場合ですけれども、前回の令和 5 年の値上げしたことを受けてですね、入浴料金が 450 円から 490 円上がった翌月から、値上げ分の 40 円を神戸市で負担するということを令和 5 年度、6 年度の 2 年間やりまして、そうすると浴場としての収入は当然 490 円で変わらないんですけれども、利用者は 450 円と値上げ前の料金で入浴できるということでした。その施策としては、値上げ前の低廉な料金で入浴できることによって、利用しやすい環境を作るそういった趣旨で、先ほどアンケートにありましたように、自家風呂の普及率が高いとはいえ、やはり、銭湯利用される方の健康増進ですとか、周りの人とのコミュニケーション目的ですとかそういった銭湯を、やっぱりある程度、入浴しやすい環境作りが必要ですよ、ということでやった施策です。

当初は 1 年だったのが、1 年延長して計 2 年間の限定となりましたが、それが終わって、どれぐらい利用者の減少があったのかなというのは把握していないんですけれど。それで、銭湯の経営がどれぐらい値上げ前と値上後の、つまりその補助終了後と変化をみて、どれぐらい施策に効果があったのかというのは私も知りたいことであります。

委員：すごく効果ありましたでしょう、営業を辞めた施設もありますけれども、補助がなかったらもっと多くの浴場が辞めていただろうに。

委員：あとは高齢者の施策という話ありましたけど、神戸市は地域子育てということで、高齢者の施策とは別に、やはり子育て世代の利用者を増やそうということで、子供と一緒に大人が入浴したら、子供は無料、大人は半額という制度をして、それにより利用者さんは年々右肩上がりで増えていますので、そういった意味では、利用者増に繋がっています。

銭湯としては、例えば、子供無料と大人の入浴料半額にしても、神戸市から負担していますので、銭湯側の収入としては変わらないという形でやっている、その辺はちょっと補助金の影響として大きいのかなとは思いますが。

そういうことで、先ほど調査の回収率を拝見すると、神戸市の回収率が 71%、ということで、結構、全体に占める割合が大きいので、補助金の影響が大きいのかなという印象はあります。

委員長：補助金の影響はかなりあるということですが、ただし料金改定後の将来にどんな補助金があるかはわからない。ということで、それを踏まえてここで検討するべきなのか、この際その公的補助金に関しては、ちょっと置いて、考えるべきなのかどうかというところですね。

委員：さきほどから表現が難しいんですけども、補助金がなくても経営ができるように設定するのか、それとも補助金を所与として、経営が成り立つようにするのかっていうことについて考えたときに、施設ごとにお金を払っているのであれば、補助金なしで経営が成り立つようにしなければいけないが、利用者に補助金っていうことになると、補助金が無くなったらどうするかというと、利用者の払うお金が増えるだけなんですよ。だから先ほど言われているように、利用者の行くのをやめたという影響を考えないとすれば、利用者に補助金を出していれば、補助金有りが正しい令和 6 年の姿ですね。もし令和 6 年度の補助金が無かったとしても、やっぱり、料金収入としては、もともとの料金収入と補助金の合計の金額であった可能性が高いということです。補助金をどう払っているかによって多分、経営の試算は変わってくるんですね。

委員長：今の 2 つのパターンありますよね、施設への補助金と、利用者への補助金と。その 2 つの内容があるわけですけど、それはそれぞれの市によって違うということですね。

委員：ただし、もし、利用者に対する補助金しか想定しないとすれば、補助金なし地域の施設は、1 人当たり 490 円というのが、料金収入になります。一方、補助金を例えば 1 人 1 人に 40 円出していますっていうところであれば、お客さんが 1 人入るとお客さんから 450 円、市から 40 円で、収入は 490 円。補助金なかったら、お客さんから 490 円、市から 0 円で、収入は 490 円です。だから補助金がありと無しとで、結局入浴料金総額プラス補助金の総額で計算しないと、補助金有り無しで話が変わってきてしまいますね。

委員長：そうですね。はい。そこからなんですけれども、今回の料金改定において、補助金有り無しで変わってくるので、補助金無しで考えたほうがいいのかなと私の考えではありますが、そうじゃなくて補助金有りで考えるという考えもあるということですね。

委員：いや、私も初めここに来るまでは、補助金を施設に出しているから、それは無くても経営が成り立つようにすべきだっていう考えでいたんですよ。ところが、いやそうじゃないと、その利用者に渡しているというふうに言われると、先ほどから言っている補助金有

りと無しっていうのは、補助金の分だけ減るのではなくって、補助金減った分、利用者が払う金額が増えるだけで、プラスマイナス 0 になってしまうのではないかと、そうすると、補助金有りで計算してもおかしくないかなって。でも実際には、その施設ごとにも補助金を払ったりするとか色々な形があるので、どっちがいいというふうには言えないと思いますけどね。

委員：私もやっぱ補助金ありでね、その補助金は、固定資産の減免とね、水道料金の減免、これは、物価統制令がある限りは、もうずっと続くわけですよ。だからこれ言うたら、施設に対する補助金ですから、これはもう有りで計算しないと。と、私はそういうふうに思いますけどね。

委員：ちょっと補足します。神戸市の例ですと、設備改修の補助金ってのがありまして、施設ごとに例えばボイラーが壊れたりとか外装がくたびれてきたりとか、そういったところについては、個別施設からの申請で、その個別の浴場に、補助をしているんですよ。先ほどの入浴料金に対する補助とは別に、施設ごとの補助というのもあります。ただそれは全施設が利用するわけではなくて、その年にたまたまそのボイラーが潰れたからとか、そろそろもうあそこの更衣ロッカーが傷んできたから取りかえますだとか、そういったところで、施設の計画に基づいて、補助するという制度もあります。

委員：すいません。これまで補助金の有無について言いましたが、迷っています。490 円だったけれども、補助金が無くなって 450 円しか収入がありません。そういうのでも耐えられるような、経営基盤の方が最終的には、市町村からの補助金っていうのが、今後減っていくという現状に対して耐えられるという意味では、その補助金無しでも大丈夫だっていうのは考え方としてありうる。つまり、行政側が今のままずっといくものだったらいけれども、そうとは限らないという意味では、おっしゃる通り補助金無しでっていう考えもいいのではないかと思います。先ほどまでは行政は変わらないっていう前提で申し上げていたわけです。10 円の差ですが、10 円と言えどもパーセンテージは大きくお風呂屋さんにとっては死活問題ですね。

委員：おっしゃるとおりです。

委員長：この先の議論に関係しますけれども、例えば小人中人については、それはもうちょっと考えないといけないんですけど、今回、また、小人についても、改定するってことに関して、ご意見ある方いらっしゃいませんか。現在は 80 円ですが、それが例えば、100 円ですとか、これは特に、変えることに対しては、変えてはならないということではなく、そこは少し柔軟性があるという理解でよろしいでしょうか。

委員：それでいいんじゃないですかね。

委員：どうして据え置いていたかって言うのは私の記憶では、過去の話ですけども、大人

が来てくれれば子供が付いてくるんですね。それが大人の料金も上がってしまい、子供の料金も上がってしまうことになると、大人が子供を連れてこなくなる、大人も来なくなることが想定され、実は子供の収入のパーセンテージが低い実情も踏まえ、家族で行こうよっていうのを促すという戦略で、値上をやめたというように記憶をしています。でもその戦略が万能とは言わないので、今回、自由に決められたらいいと思います。

委員：やはり神戸市さんがやってらっしゃる子育て支援のそこがポイントですから。やっぱり子供さんに来ていただいて大人も呼ぶという形になりますからね、もう据え置きでいいのではないかなと思いますけどね。

委員長：例えば、今回の上限ですから、それぞれの施設である程度自由に入浴料金を設定いただいていいんですよ。

委員：おっしゃる通り上限ですね。

委員長：こちらで、改定して決める料金を少し上げても実際に上げるかどうかはそれぞれの施設が決めるということですね。そうすると、小人中人に関しても据え置きということではなく、場合によっては、そこは変えてもいいっていう考えもあります。それを踏まえて、話を戻しますけども補助金有り無しについてどうでしょうか。大人については 580 円ということであれば、補助金が有っても無くてもシミュレーション上は、収支がプラスになるということです。

委員：私の方から 1 つ考えを言います。今 490 円の設定料金で 580 円になると、90 円の値上げ幅ですよ。これはやっぱり神戸市ではないけど、やはりお客さん離れする可能性が非常に強いんじゃないか心配しています。シミュレーションとして出ているんですけども、ここは 570 円、180 円、80 円というふうにしていいただければ、たった 10 円の差ですけども、それでも、値上げ幅として 90 円と 80 円では、受ける印象は多少違うのではないかなっていうのは、私は思います。先ほど言いましたように 550 円から 600 円という、浴場組合からの要望の根拠 4 つ挙げましたけども、その中に合致していますので、希望としてはその辺ではどうですかなという感じはします。

委員長：1 つ今大事なことがでましたけれども、大人 570 円と中人が 180、小人が 80、ここはもう据え置きということですね。15 ページでいうとシミュレーションの収支がマイナスでなくなる料金になります。

委員：すいません、試算のこれは令和 7 年価格です。でも令和 5 年決めたときには、今後物価が上がっていくよねっていうことも考慮して、ある程度余裕をもっていたのに、結局、あっという間に赤字になるじゃないですか。いやもちろんそのお風呂屋さんが、廃業されたとかそういう、全くおんなじ人たちの収支ではないですけども。それを考えると、ぎりぎりプラス収支の料金でいいのかなとか。

委員：もうちょっと余裕を持って金額を考えてはどうかということですね。

委員：来年度の物価は上がりつつあると思いますね。そういうことを考えるとどうでしょうね。

委員：そこなんですけれど、庶民感覚とのずれがちょっと出てきそうな気がしています。こういう事例を、兵庫県さんに言うのは申し訳ないんですが、実は京都府がこの入浴料金審議会を毎年やってらっしゃるんですよ。そこでも物価の値上げが話題になっておりまして、今年の 8 月に結論が出て京都新聞のデジタルにちらっと載っていたんですけども、今年は料金据え置きだと審議会からの結果が出ていました。それはどうしてかと言うと、京都の場合は学生さんが多いので、特殊でしょうけれども、赤字、黒字で十分シミュレーションして、儲かっているため値上の必要がないんだという結論だったようです。そういうわけで、京都府さんは、今年は値上げをしませんとなった、来年はまだわかりませんが、だから委員のおっしゃったように協議会後の調査のようなものができたら、毎年していただくのが大変であればせめて 2 年に 1 回ぐらいは開催して検討していただいてね、今回は値上げを中止なんだという結論でも私はいいと思うんですけどね。ちょっと予算はかかると思いますけども、できたらそちらの方法でやっていただきたいと思っています。委員の心配というのは、もうちょっと上げといて、審議会をやらなくていいということですね。

委員：いえいえ、手間の話をしているわけじゃないんですよ、私は何年か毎にしか、協議会を開かないという理解でしたので。大阪も毎年審議会を開催しているんですね。京都は今回 2 年連続で開催しているんですね。

事務局：大阪は毎年やっておりますが、京都は要望により今回は 2 年連続になったと聞いています。

委員：京都のことをもう少し詳しく言いますと、昨年の値上の段階で、値上前は 530 円だったんですね。それで値上げを要求して 550 円になったということでした。その時にこのようなシミュレーションをしたと思いますけど、浴場組合としては実はもう少し値上幅を大きく 570 円ぐらい要望したんだけど 550 円になってしまったと、そうすると、委員のおっしゃるように翌年またアンケートをとって、赤字であれば検討してくださいという項目を、審議会として附記したらしいですね。つまり、今回の結論は 550 円にするけども、また来年はもう 1 回検討するんだということで、2 年連続になったと聞いています。来年やるかどうかはちょっとそこまで聞いてはいないんですけど。

委員：例えばですけど、一気に 580 円まで上げるよりは、一旦 570 円にして継続して検討ということですね。

委員：はい。それぐらいですね。

委員：それでいきましたらね、その中人小人なんですが、京都、大阪、奈良、岡山とかね、200 円 100 円とキリのいい数字が出てるじゃないですか。だから、この際といったあれなんですが、そこまで上げられるのもいいんじゃないかなと思います。兵庫は違うのですか。

委員：やっぱ 80 円アップというインパクト強いので、さらに中人小人を上げるか、当然反発は客離れになりますからね。まだ 550 円の段階であれば、200 円 100 円がいいと思うんですけども。大阪の 600 円 200 円 100 円はちょっと特別な印象です。大阪の場合はどういう理由でそうだったか、その時のことは知りませんが、他県としてはそんな感じですか。中人小人は、現状どおりでいいんじゃないかと思いますけどね。

委員長：今出てきているのが、大人 570 円、中人小人は据え置き 180 円と 80 円、シミュレーション上では、これは補助金有りで考えるとここからは赤字が解消されるというそういう数字です。ただし、補助金無しで考えると 570 円 180 円 80 円であると、シミュレーションでは 3 万 4,000 円のマイナスになっています。

今回はそれでいいか或いは、もう少しこの先のことを見越して、もうちょっと余裕あることを考えるかっていうことなんですが、ただ、庶民感覚って話もありますね。

委員：庶民感覚も肌感覚も多分大きいと思いますよ。例えば家族、大人ばかり 4 人で利用すれば、1 回行けば 2,000 円超えてしまいますからね。

委員：実は、協議会全体の会議のとき何人かの方からでた意見というのが、庶民感覚という視点とはちょっと違うのですが、この値段の変動でどれぐらいお客さんの数が減るのかというのを知りたいということがありました。それで、例えば、前回値上げ後のデータ収集は難しいけれども、例えば今回値上げをしたら、1 年後にもう一度データをとって、値上げの影響がどれぐらいあったのかを見て欲しいというような意見も出ている。庶民感覚という直感的なことは大事だけれども、一方で客観的なデータがあるのが好ましい。それは今回改定した後、そのあたりの数字というのはいただけるものなんでしょうか。

事務局：場合によっては、次回の協議会開催時に遡った時期の調査を施設に依頼するというのができると思います。例えば令和 10 年度の協議会開催時の調査の際に最新のデータに加えて、令和 8 年の入浴者数などのデータを回答してくださいと、そういう形のデータ取りはできるかと思います。

委員長：ではいかがでしょうか。大人中人小人について今回の改定は 1 つの今出てきている案としましては大人のみですね、570 円に改定するという案が、中人小人については据え置いた方がという事ですね、他の地域で確かに、中人小人ももうちょっと高い 200 円 100 円とありますが、それは、客離れ招きかねないということもありますので、そういう

危惧もあり据え置きたいとの考えもあるということです。ここまでのところでは料金案は 570 円、180 円、80 円となっています。

委員：次の本協議会で同じこと言うかもしれないですが、どうもこの議論で難しいのは、普通は業界がもっと値上げしてくれと言って、他の委員がいやいやそこまではと言って抑えるものなんですけれども、大概議論が逆になってしまうんですね。いや、もっと上げたらどうかと他の委員は言うんですけれども、業界が非常に慎重でそこまで上げなくてもいい。ずっと苦しい経営が続いているからだと思うんですけれども。

委員：委員がおっしゃったように値段が上がると、客離れですかね、売上減になって赤字幅が増大して、もう高齢化に相まっても家業をやめてしまうようなことをどうしても考えてしまう。だから本当はその設備ですね、我々、銭湯業界は装置産業的にやはり設備の代金はすごく投下資本が大きいんですよ。だから、売り上げが悪いからやめて、また別のところでやろうということはまずできませんので、もうそこに決めたらそこで頑張るしかない。そういうことで、お客さんに対して最新の設備を入れて、省エネ関係も入れてってような形になりますので、やっぱり設備への補助金というのが、今後はすごく大事になってくるっていうのはあると思いますけどね。

なかなかね、これはどの企業でもそうですけど、売り上げ増というのはどんな企業でも前年比 10%の売上げを上げられるところは少ないんじゃないですか。今本当に、なかなか売り上げを増やすっていうのは至難のわざですね。営業の神様でも居たらいいと思うんですけれども。だから施設へのその補助金っていうのは、神戸市さんみたいな補助をしてくれるところが増えれば、良くなるんじゃないかなと思いますけどね。市長の考え方と市の財政状況というふうなところでの違いですね。

委員長：改定した場合には、その改定の通り、そこにあわせて皆さんが改定されるものですか。

委員：なんとなく伝統的に尼崎はバラバラですけど、尼崎はなぜかわかりませんが、他はほぼ統制額に改定されると思います。とは言え、上限価格ですから、それ以下でやっても何とも、我々は違反だとは言えませんが、感覚的にはほぼ皆さんそうされるではないかと思います。

委員：大阪府が 600 円になったじゃないですか。やっぱり、施設はほぼ 600 円でしょうか。

委員：いえ大阪はバラバラじゃないでしょうか。大阪の例えば生野区とか人口の多いところはいいですけども、府ですから岸和田とか或いは枚方とかになるとまったく料金は低いですね。

委員：田舎の方に行くと 600 円まで取らずに、人口密集の方が 600 円上限ぎりぎりまでいくような感じですか。

委員：正式なデータを持ってないですが、噂に聞くと大阪でも特に生野区だけと言っていましたけどね。

委員長：他に何か今出ている料金案で言うと、大人 570 円と中人小人は据え置きということですが、これは資料 6 ページにある調査結果で値上げをしてほしいというような施設の結構強いご意見の方々のご意向にも沿う内容ということですよ。

委員：はい、570 円はそういう料金だと思います。やっぱり他府県で兵庫県が、今一番料金が低く 490 円で、それはタイムラグの問題でしょうけども、早く理事長行って値上げ交渉してくれてという、組合員からの要請は多いです。

委員長：それは、580 円じゃなくて 570 円ということではっきりすることもないですか。

委員：はい、私はそう思います。

委員：業界が 570 円でいいと言われたら、我々他は何とも言いようがないですね。本当はね。

委員：580 円という、これを言いたかったんですけどね。この 10 円の差が多分大きいと思いますね。なんか、感覚的にね、90 円の値上げになってくるとなると。

事務局：私もちょっと 1 点お聞きしたかったんですけど。この統制額は、あくまでも上限額なので、高いというか 580 円、200 円、100 円にしておいて、あと 570 円にするか 580 円にするかっていうのは施設の方で考えていただくのはどうかなあとは思ってますね。

委員：そうですね、そう、そこは一応組合としての議決を取ってないんですけど、もう、組合長に任せてあるって言われているので。今、事務局が良いことおっしゃったので考えを変えようかなと。

委員：やや心配しているのですが、委員は、発言しづらい内容かもしれませんがどうも、何回もこの協議会をやっていると、尼崎市だけは例外だけれども、他のところは、やっぱり業界の常識として、もしくは、それぞれの組合員の常識として、定められた金額にしようよという、それで、値下げ競争とかもせずに、みんなで協力してやろうよっていう雰囲気なんじゃないかなと思います。

委員：おっしゃるとおりですね。なぜかそんな感じですね。

委員：そういうのを全部壊しちゃって、あくまでも上限なんだからっていうのもっと上限を上げてしまうというのも 1 つの手かもしれない。でもそうするとやっぱり、その業

界の常識をまず打ち破るという覚悟が我々このメンバー5 人にあるなあという気がしますね。しかし組合で、皆さん、一緒になって頑張ってきたというのがなくなっちゃいますから。どうもお話をお聞きしているとそんな感じがします。

委員：昔の物価統制令の関係ですかね。というのは、銭湯業務をするのにまず、保健所の許可があるんですよ。そうすると、昔で言う距離制限がありまして、隣の方と自身の施設で、220 メーターを絶対離れないと許可できないっていうものですね。そういう制限があって特殊な業界ですね。今の時代であればあと 10 年もすれば、自由化で自由競争になるんじゃないかと思うんですけども、今はそういう形です。それと組合員が、昔は非常に多かったので組合員の競争があって、隣の銭湯よりもちょっとでもいい設備をし、たくさんお客様に来てもらうという、競争意識がものすごく働いていたんですよ。それが実は尼崎なんですよ。今はもう件数が減ったからですけども、そういうお風呂屋さんの当時の競争意識っていうのはすごく薄れているという現状ですね。特殊な業界といえばそうですね。だいたい、人の裸を見てお金儲けしているんですからね。ちょっと、雑談になりましたけど、本当に日本だけの文化だと思います。料金の話と離れましてすいません。

委員長：私もご提案したつもりだったんですけども、その上限ですからその範囲で自由に設定してもらいたいということではあるんですけど、さっき委員もおっしゃったように、組合員の中で、皆さん同じ考え意識があり、それより下げておくっていうのは難しいっていうのはそういう事情もわかりました。他業界でも同じような事例はありますから、どこかの施設だけ下げるのは難しい、方向性として上限が決められたら皆さんそこにそろえていくっていう、きっと何か昔からの意識があるんでしょうね。

委員：委員だけじゃなくって、今まで業界代表としてこられた方の話をきいていると以前から思っていたんです。尼崎だけはちょっと事情が違うようですけど。

委員：意見変え、中人と小人の値段もできたら、協議の中のご意見どおりちょうどきりのいい 200 円 100 円という形で、できたらお願いしたいと思います。ただし 570 円は固持したいと思いますけども。

委員長：新しい案が出ました 570 円と 200 円と 100 円とするという。

委員：その場合は、例えば、子供は 100 円ですが、大人と一緒に来たら 20 円引きますというように、金額は業界ではある程度統一するけれども、施設によっては何か特別な理由をつけて安くすることは、今の業界の雰囲気でも問題ないでしょうかね。

委員：問題ないです。やはりお客さんが減るんじゃないかと悪い意識があったものですから、そこで事務局の発言を聞いてそうかなと考えを改めました。

事務局：最初に近隣府県との整合性みたいなことをおっしゃっておられたので、17 ページ

の近隣府県の料金を見ていましたら、中人小人が 200 円 100 円っていうのが多いんですよね。なので、そういう意味では 200 円 100 円に本当はされたいのではないのかなと、何か変なふうに思ってしまひましてすみません。

委員：おっしゃる通りですね、変えてください。お願いします。

委員長：ちょっと整理しましょうか。はい。こちらで議論してきましたが、大人に関しては一気に 90 円ということではなく、80 円アップの 570 円ですね。中人小人に関しては、近隣の県との関係といたしますか繋がりますか、バランスといたしますか、そういうことを考えて今回 200 円と 100 円となり、まとめると大人 570 円、中人 200 円、小人 100 円で、いかがでしょうか。

委員：バランスだと思います。業界としてもそういう考えであればいいのかなと思います。

委員長：では今再度申し上げますが、大人が 570 円、中人が 200 円、小人が 100 円っていうことでこの場でこの内容につきましては、第 2 回の公衆浴場入浴料金協議会へ報告をすることよろしいでしょうか。

委員全員：（異議無し）

5 閉会

委員長：では今後の日程についてですね、事務局からご説明いただければと思います。

事務局：第 2 回協議会の日程ですが、10 月 22 日の水曜日、14 時 30 分からひょうご女性交流館会議室 301 にて開催を予定しております。

委員長：はい。ありがとうございます。

本当に皆さん方、いろいろとご意見いただきましてありがとうございました。他に何かありますか。ご意見、この場で何かあれば聞きしますけれども、よろしいですか。

よろしければ、司会を事務局の方にお返しいたします。

事務局：各委員には、長時間にわたりご協議いただき、ありがとうございました。これで、公衆浴場入浴料金協議会小委員会を閉会いたします。
どうもありがとうございました。